

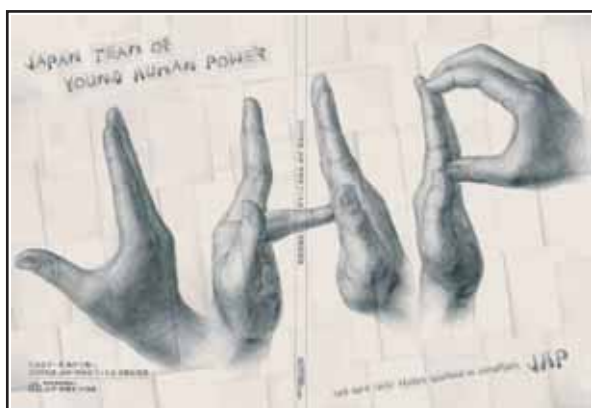


小山内美江子 国際ボランティア・カレッジでの講義風景

記録集発行

主に2008年度の活動内容を網羅した記録集を発行し、2010年3月末に発送しました。

タイトルは『ふみ出す一歩 輪から輪へ』。発行部数3,900部。表紙デザインの刷新(写真は表紙を広げた所)、事業報告書の構成変更(裏表紙からの掲載)など工夫しました。



機関紙発行

「JHPニュース」は今年度は6月(46号)・10月(47号)・12月(48号)・3月(49号)の計4回発行しました。今年度はデザイナーの協力を得て紙面レイアウトを改善し、見やすく・親しみのもてる会報づくりを目指しました。今年度も企業広告枠を設けて印刷協力をおおぎ印刷費を削減したいと考えています。



募金箱運動

JHPでは使用済み空きパックに貼る専用シールを配布しながら募金を集めています。今年度は30枚を配布。回収は12個で50,942円でした。(開始以来の総募金額は909,147円)

オリエンテーション

毎月2回(主に第1土曜日10時、第3金曜日17時)のペースで、活動全般を紹介するためのオリエンテーションを実施しました。今年度の参加者は29名。主に学生、社会人で、カンボジア隊や国際ボランティア・カレッジへと進む人も多く見られました。これからもJHPの活動と参加の方法を分かりやすく伝えていきます。

地域ネットワーク

2002年度より「地域サポーター」制度を設け、国内活動の充実を目指しています。事務局はサポーターの要望に応えながら主体的な活動を促しています。今後も、支援者や海外ボランティア隊経験者が、地域に根ざした活動を展開しやすいように、随時連絡を取り合い、情報提供(会報、ホームページ)、資料貸出、スタッフ派遣など対応していきます。

ホームページ

10月29日からメールマガジン「JHP便り」をスタート(全11回配信)。東京・ブノンペン事務所のプロジェクトや日常の様子等を配信しています。(読者募集中! JHPホームページ上から登録していただけます)

また、東京・ブノンペン事務所持ち回りの「JHP日記」(48回配信)、ボランティア日記(24回配信)、4期カレッジ隊と活動隊の現地レポートを行いました。2008年6月のリニューアル後もホームページをみての問合せを継続的にいただいています。今年度はインターンによる定期的なHP更新を行いました。

現地コーディネート

ブノンペン事務所は、1年間に33回、318名の訪問者を受け入れ、事業視察、見学、贈呈式参加、ボランティア作業を希望する個人、団体、企業等に対応しました。

国際ボランティア・カレッジ

第4期(2009年度)小山内美江子国際ボランティア・カレッジは、2009年9月12日開講式、2010年3月27日修了式を実施しました。今期は 特色として

①JHP事務所移転、講義会場はJHP内に設定
②履修生は初の定員を上回るスタート③履修生は 社会人の 医師、看護師、企業経営・NPO運営、エンジニア、教員、会社員、音楽家、学生は 法学、建築、考古学、看護学、薬学、留学経験等のユニーク分野の講成になり、幅広い年齢層により交流を深めながら 意欲的、協調的なカレッジになりました。

超一流の講師により国際問題やNPOなどについて学び、後半はカンボジア研修として現地学校贈呈式参加、日本の音楽等セレモニー、炎天下でのブランコ建設作業、

王宮・大使館、孤児院、小学校、現地NPO、遺跡、歴史施設等訪問やこどもたちの交流など3週間の体験研修でした。

全体を通じ、講師・履修生の積極性が高く、多くの質問や明解な説明等により、国際協力・理解が深まり、今後の活動に反映するものと期待しております。

また、前期3期生から4期生との情報交換を希望する熱いメッセージや現地活動に食糧支援など、経験を踏まえた皆さんが共通の思いを持って学ぼうとする姿勢に心からの敬意を表したいと思います。なお、今期履修生からもカメルーンへの青年海外協力隊合格者などあり、カレッジが有効・効果的な内容に進展していると考えております。



	第1期	第2期	第3期	第4期
全科目履修生	20名	19名	28名	31名
出席率(平均)	62%	66%	68%	66%
聴講生 述べ人数	454人	377人	145人	94名
講師数	34名	37名	42名	40名
講義数	83講義	83講義	72講義	68講義
現地研修参加者数	12名	13名	17名	18名

【参加者の感想】 カレッジ隊レポートより抜粋

3週間の現地研修を無事に終えることができました。私にとって、カンボジアの事を想って活動している日本人の方々に出会えたことが、この旅の一番の収穫でした。最貧困層への支援を重要とする考えや、カンボジアと日本の国同士の関係として支援をどう考えるかなどを知り、さまざまな視点からアプローチすることの必要性を感じました。政府やNGOなど、それぞれに得意な分野と不得意な分野が異なることを知りました。しかし、これらの様々な考えを持つ多くの方が、カンボジアをより良くする事に真剣に取り組む姿は共通していると感じました。

そして、遺跡や博物館を実際に目で見て歴史を知ったことにより、現代のカンボジア人に対する影響や役割についても知ることができました。カンボジアを理解するということに近づけたのではないかと感じました。

また、カンボジアだけに限らず世界に依然として続いている問題、戦争や飢餓、人権の侵害についても考えさせられました。必要なのは、常に広い視野をもち相手のことを考え、他国と協力して解決に向かって進むことだと感じました。

この3週間での経験を活かし、カンボジアで感じた気持ちを忘れずに進んでいきたいと

思います。我々の訪問を受け入れてくださった方々、また応援してくださった多くの方々に感謝いたします。ありがとうございました。(内藤亜実)

